

将来の環境変化を見据えた学校施設の改修設計

共催

日本建築学会 構造委員会+文教施設小委員会

主旨

我が国の人口が拡大する時期に建てられた多くの学校施設について、大規模な改修が必要な時期となってきている。科学技術の発展などに伴う教育の変化、地球温暖化などの気候変動の影響、地域における若年人口の変化など、学校を取り巻く環境は時代と共に変化しており、今後も変化していく。また、自然災害に対する必要性能も、大地震を受けても倒壊しないことから、大地震直後にも機能を維持することが求められるようになってきている。本年度の技術部門設計競技では、既存の学校施設を対象に、現在から将来にわたる環境変動を見据えた平時の教育環境の充実・発展に加え、そこで想定される災害に対する安全性、災害時の建物の利用形態を考慮した空間・構造とする改修計画を、課題として設定する。部材の加除を含む、挑戦的な構造・設備計画の提案を期待する。

応募要領

①課題

将来の環境変化を見据えた学校施設の改修設計

②応募資格

本会個人会員（準会員を含む）、または個人会員のみで構成するグループとする。なお、同一の個人が複数作品の応募をすることは認めない。（代表者または共同制作者のいずれの場合でも認めない。）

※未入会者、2022 年度会費未納者ならびにその該当者が含まれるグループの応募は受け付けない。応募時までに入会および完納すること。

③募集内容

- (1) 地域社会における現代のニーズおよび将来（30 年程度あるいはそれ以上の期間）の社会環境の変動を積極的に先取り反映した、既存学校施設（廃校となっているものは対象としない）の改修計画の提案。計画に当たり、地域における他の機能との統合・複合施設化、既存施設の部分的な用途変更は可とするが、学校としての機能を維持すること。
- (2) 建物は新耐震基準による一般的な標準設計の校舎を想定し、その規模、立地条件、地域特性等は提案者が設定するものとし、現在から将来にわたる環境変動を見据えた平時の教育環境の充実・発展に加え、そこで想定される災害に対する安全性、災害時の建物の利用形態を考慮した空間・構造計画とする。標準設計で満足できなかった空間・機能の改善、追加を実現できる、部材の加除を含む挑戦的な構造・設備計画の提案を期待する。
- (3) 想定する社会の変動要素として、社会環境（人口変動・流動化、国際化、インクルーシブなど）、科学・技術環境（ICT 技術、AI、オンライン化など）、地球環境（省エネ、創エネ、温暖化など）、教育環境（教育の個別化・多様化など）、地域コミュニティとの関連など、学校に影響を及ぼすと考えられる要素を取り込んでよい。
- (4) 想定する地域の今後 30 年程度あるいはそれ以上の期間における社会や環境の変化とそれらについての着目点を A4 用紙 1 枚にわかりやすく簡潔にまとめるとともに、提案する改修計画においてそのシナリオとの関係を明確に示す。

④審査委員（敬称略、五十音順）

委員長 中埜良昭（東京大学）

委員 五十田博（京都大学）

〃 伊藤俊介（東京電機大学）

〃 岩下 剛（東京都市大学）

〃 衣笠秀行（東京理科大学）

〃 腰原幹雄（東京大学）

〃 松本由香（横浜国立大学）

〃 南 知之（石本建築事務所）

〃 柳澤 要（千葉大学）

〃 山田 哲（東京大学）

⑤提出物

下記(1)～(4)の 4 点を提出すること。使用する言語は、日本語または英語とし、データのみ提出は受け付けない。

※ (1)(2)(3)の出力紙は、折って提出しても構わない。

(1) 応募申込書

以下を A4 判 1 枚に明記すること（自由書式）。

①提案名（提案内容を的確に表す簡潔なタイトル）

②代表者の氏名（ふりがな）・会員番号・所属

③共同制作者全員の氏名（ふりがな）・会員番号・所属

④上記中の連絡担当者の氏名（ふりがな）・会員番号・所属・連絡先住所・電話番号・E-mail アドレス

(2) 提案する計画案（図面）

以下を A1 判 1 枚に収める。用紙は縦使いとし、パネル化しないこと。

①提案名（提案内容を的確に表す簡潔なタイトル）

②計画の意図と概要

③建物の設計

※注意：計画案には、氏名・所属など**応募者が特定できる情報（ファイル作成者等を含む）を記載しない**こと

(3) 想定するシナリオ

以下の内容を A4 判 1 枚に収める。用紙は縦使いとする。

①想定する地域の今後 30 年程度あるいはそれ以上の期間における社会や環境の変化とそれらについての着目点

(4) 上記「(1)応募申込書」、「(2)提案する計画案」および「(3)想定するシナリオ」の PDF ファイルを収めた CD-R または DVD-R

⑥提出期限

2022 年 5 月 23 日（月）17 時必着

⑦審査会

審査は二段階で行う。

(1) 一次審査会（非公開） 2022 年 6 月中旬予定

入選作品候補を選定する。

(2) 二次審査会（非公開） 2022 年 7 月中旬予定

入選候補者による 10 分程度のプレゼンテーションを実施し、各賞ならびに佳作を決定する。（建築会館での開催を予定）

⑧表彰

最優秀賞 ー1 点：賞状および副賞 50 万円

優秀賞 ー3 点以内：賞状および副賞 10 万円

佳作 ー若干：賞状および副賞 5 万円

ただし、審査結果において該当作品なしとする場合がある。

⑨審査結果の公表等

(1) 入選作品は 2022 年 9 月の日本建築学会大会（北海道）で表彰する予定である。

(2) 入選作品は審査経過・講評とともに『建築雑誌』および本会 Web サイトに掲載する。

⑩その他

(1) 提出物（応募図面・関係書類等）は返却しない。

(2) 応募作品の著作権・特許権は応募者に帰属するが、『建築雑誌』・本会 Web サイトへの掲載や日本建築学会編の出版物に用いる場合は、無償でその使用を認めることとする。

(3) 課題の内容に関する質問は受け付けない。

【提出先】

（一社）日本建築学会事務局「技術部門設計競技」係

〒108-8414 東京都港区芝 5-26-20

TEL.03-3456-2057